



# 羅針盤

岩月 啓氏  
Keiji Iwatsuki

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学分野 教授  
Visual Dermatology 編集協力者



## 皮膚科の職人魂

### —知識・見識・技量・情熱・感性が生むシナジー効果

筆者がこれまでお会いした皮膚科診療の達人に共通するのは、知識・見識・技量・情熱・感性のバランスの良さではないかと思います。知識、見識は一朝一夕には身につかず、また、感性の涵養には個々の生活史そのものが関わってきます。すべての皮膚科領域でこれらの要素を完璧にこなせる者は誰もいません。基幹病院では、各人の弱点を補完しつつ、多様性のある個性を融合させたシナジー効果によって先進医療を支えています。

本号は、上記5要素のうち伝授が可能である「技量」に相当する部分を中心に、編集を企画しました。標準的技量はすでに診療ガイドラインや多くの書籍で紹介されていますので、本誌では「こだわりの皮膚科診療」を中心に原稿を集めました。

筆者は、出身大学病院を加えて学派の異なる4つの病院で教育を受け、診療した経験があります。興味深いのは、それぞれの学派で用いる診断名や病態の解釈が微妙に異なり、皮膚科治療や処置に関してもそれぞれ伝統やこだわりがありました。どれが優れているかという比較ではなく、自分たちが当然と考えている処置法やカルテの記載法のなかに、実はユニークなものを見出すことができました。筆者自身が「なるほど、こういう方法があるのだ」と気づいたことがいくつもありました。

本誌では、岡山大学皮膚科学教室とその関連病院における診断・診療手技を取り上げました。皮膚科診断的手法、処置法や患者とのコミュニケーションなど、診断を「つける」「告げる」ためのノウハウを紹介いたします。記述には、現代医療に適合しない過去の遺産がありますが、皮膚科医療史の紹介とご理解ください。当教室関係者は、私を含めフランス学派との親交が深いので、フランス学派が提唱した皮膚科診断名についても簡単に紹介いたします。仏語原著の翻訳は、近刊『Lessons from classics of French dermatology』（岡山大学皮膚科学教室にて編纂中）をご参照ください。

岡山大学皮膚科学教室は、2013年に開講百周年を迎えました。また、2014年に第113回日本皮膚科学会総会（5月30日～6月1日、京都）を開催いたします。総会テーマ「皮膚科の職人魂」は、プロの皮膚科医として、熱意と生きがいをもって日々の診療にあたり、一生の仕事として自己研鑽を積み、医師としての責務を果たし、少しでも社会貢献したいという筆者の思いをストレートに表現いたしました。本誌の「こだわりの皮膚科診療」は、そのテーマにつながるものです。皮疹に潜む病因・病態を読み解き、病理組織所見の声を聴き、鬼手仏心の域まで技量を向上させることは、筆者自身の果てなき願いでもあります。